

平成 27 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1 対 1 対 談 (志摩市) 会議録

1. 対談時間

平成 27 年 8 月 24 日 (月) 16 時 30 分～17 時 30 分

2. 対談場所

志摩市立図書館 2 階 展示室
(志摩市阿児町神明 1074-15)

3. 対談市町名

志摩市 (志摩市長 大口 秀和)

4. 対談項目

- 1 伊勢志摩サミット
- 2 地方創生
- 3 サミット開催を契機とした地域づくりについて

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

本日は大変お忙しい中、1 対 1 対談の時間を設けていただきまして大口市長、どうもありがとうございます。多くの皆さんにもお越しいただきましてありがとうございます。

今日はおそらく来年 5 月 26 日、27 日に開催されますサミット開催について、まさにサミット開催地の市としてさまざま、これから限られた時間ですけれども今後に向けて、またサミットの開催後に向けて意見交換をしていければというふうに思っている訳でありますけれども、そのサミットの関連の中身は後に色々やるにしても、こういうのぼりを立てていただいたりとかですね、その地域の機運醸成に働きかけをしていただいていることを改めて感謝を申し上げます。

それからサミットに関連するか関連しないかは別として、ふるさと納税も志摩市さんは大変急増しているというようなことで聞いております。特に、サミット決定後すごい伸び率を示しておりもしかしたら三重県で一番の玉城町を抜くのではないかと言うぐらいの勢いになっていると聞いております。具体的な額とかは私ちょっと承知しませんけれども、そういうふうに聞いておりますし、また先ほどの「すごいやんかトーク」でも少しお話ししましたが、あるインターネット系旅行会社の調査によれば、今度のシルバーウィークの予約が対前年

の6倍。県全体で6倍ですけれども、これ全国で伸び率3番目なんですけど、志摩市に至っては県の中で最も多い7.5倍ぐらいに伸びているというようなことで、いろんな意味で注目を浴びているところだと思います。ぜひこのサミットの効果をですね、一過性にせず共に頑張っていきたいと思っています。

またこれは大変光栄なことであると思いますけれども、第8回海洋立国推進功労者表彰においては、志摩市さんがこれまでの里海などの取り組みなどをふまえて、自治体としては初の受賞をされたということで、心から祝意を述べたいというふうに思いますし、ぜひこれを機にさらに里海などの取り組みをすすめていっていただくことを心から期待したいと思っていますし、私どももサポートしていきたいというふうに思います。それではたいへん限られた時間ではありますが、多分、来年のサミットまで最後の1対1対談になると思いますので是非有意義な時間を過ごしたいと思っています。どうぞよろしくおねがいします。

志摩市長

皆さんこんにちは。鈴木知事にはお忙しい中、この志摩市においでいただきありがとうございます。そして知事の言われるように市の要求、要望、思い、そしてまた県の要求、要望、思い、そういったものの情報共有ができるということで、大変この1対1対談、大変ありがたく思っております。今後も進めていただきながら、共に県政の発展、また市政の発展に寄与していただければなと思います。延いては日本国の発展ということで大変期待しております。

また、これまでに知事の方からですね、この2016年伊勢志摩サミット誘致について本当に大変なご尽力をいただきました。ありがとうございます。知事が言われるように6月7日に安倍総理から発表があり、三重県が指定され、志摩市賢島が会場指定されたということは、知事の並々ならぬ努力とこれまでの結果であったと、本当に感謝をいたします。翌日から志摩の観光協会、また志摩市の方へもたくさんのお問い合わせの電話がありました。初めて聞いた賢島はどんなところだろうとか。そして次の日からたくさんの方々も賢島に訪れていただいて、この夏には、素晴らしい成績、知事より7.5倍の観光客ということで、これまで遊覧船があったわけなんですけど、エスペランサといいます、結構空いておったんですけど今は満員ということで大変ありがたい。面白いというよりもこれは素晴らしいことだと思います。今まで我々は何十年かけて志摩市の発信をしておりましたけど、サミット開催ということで、瞬く間に世界に志摩市賢島が浸透し、いまやあらゆる国から志摩市がまた三重県が注目されるということは本当に宣伝効果については途方もない額だと思います。そういう意味でも我々もこの機会を逃すことなく、三重県南部の活性化、志摩の活性化ひいては三重県の活性化に努力したいと思っています。これからも頑張りながら共

に元気に志摩を盛り上げたいと思います。

またもう一つ、9月5日にサミット関連のサミットフォーラムが磯部町で開かれますけども、その時に知事にも来ていただけるということで大変ありがとうございます。また宿題もいただきありがとうございます。またこれも成功に収めながら一つ一つ積み上げて、さすが三重県、さすがに三重県ということで頑張りたいと思ひまして今後ともよろしくお願ひします。今日はどうもありがとうございます。

(2)対 談

1 伊勢志摩サミットについて

志摩市長

サミット、本当に今の段階では姿がよく見えません。今、国が国の役割、県が県の役割、市が市の役割とやっております。その中で我々としましてもサミット開催を受けて、志摩市としてサミット推進室を新たに設けました。そして専属職員を配置させていただきました。同時に、庁舎内にも推進本部を設置し伊勢志摩サミットの開催に向けた態勢を整え、伊勢志摩サミット推進局とも連携しながら来年のサミットの安全安心な開催に向けて取り組んでいるところであります。また、三重県がこのように県民会議を立ち上げたのと同時に、志摩市でも市内関係約 40 団体と 3 団体のオブザーバーにご協力いただき、「伊勢志摩サミット市民会議～光り輝く志摩づくり会議～」を設立し、官民一体となった受け入れ態勢を構築していくところでございます。

この志摩市が取り組むことといたしましては開催地にふさわしい環境整備ということで、今色々なお話をいただいております。市の全域が伊勢志摩国立公園に指定されていることを地域の人々が改めて認識をし、美しい自然景観と、人の暮らしが自然と調和した街の風景の素晴らしさを来訪者に感じていただけるよう、クリーンアップ活動など市全体で今できる環境整備に取り組みさせていただきますと思っております。

また、観光地志摩の世界への発信。このサミット後の知事が言われたように一過性で終わらせないためにもサミット後の志摩づくり、このサミット開催を言われるようにインバウンド誘客の絶好の機会ととらえさせていただいて、各種外国語による情報発信の強化や、飲食店、宿泊施設、観光スポットなどを中心とした地域の受け入れ態勢の準備を進め、各国からの来訪者に志摩市を十分に感じていただけるようにするとともに、観光地志摩の世界への発信に取り組みます。この地域の活性化に向けた各種取り組みを行い、サミット開催後もながく志摩をそして三重を魅力ある地域として認めていただけるような取り組み

ができればと考えております。市民をはじめ関係者の皆様方にお知恵をいただければと考えていますので、知事におかれましてもまた色々なアドバイスをいただければありがたく思います。

その中で課題の共通認識として 1 番には「交通渋滞対策としてアクセス整備の必要性」を地域として取り上げます。サミット開催も含め観光客の増加による交通渋滞で志摩市に観光地のマイナスイメージが根付かないような対策として、幹線道路の整備が必要と考えられます。ここでお願いしたいことは、中部国際空港からのアクセス整備ということで伊勢志摩地域への空港からのアクセスを充実して外国人客が簡単に三重県に入れるように空港高速リムジンバスの運行等の整備、さらに平成 33 年開催の三重国体までに国道 167 号磯部バイパスの開通の早期実現についてご尽力いただきたいと思っております。

また、2 つ目には「外国人観光客の受け入れ体制のための Free Wi-Fi の接続環境の整備」であります。外国人観光客に快適に滞在していただくために、Free Wi-Fi 整備は急務と考えております。現在、三重県としても「Free Wi-Fi MIE」として県内主要観光地の整備、補助金の交付も行っているところではございますが、志摩市内の整備箇所は、今現在、志摩市観光協会、志摩自然学校、横山ビジターセンターの 3 ヶ所のみであります。市としても市関係施設での整備はもとより、観光事業者への整備促進のための補助金事業も検討しておりますが、市の予算だけでは地域全体を網羅するのは大変困難であります。伊勢志摩地域全体としての Free Wi-Fi MIE の整備、みえ旅案内所でのポケット Wi-Fi のレンタルなど、伊勢志摩地域の Wi-Fi 整備にお力添えをいただきたく思います。先般も志摩市議会で臨時予算を可決いただいて、今、市の方でも地域内の方々に声をかけているところでもありますので、さらなるお力添えをお願いしたいと思います。

また 3 つ目には「外国人観光客対応として換金所の設置」であります。外国人観光客の中には来日時に空港で多くの現金を換金せずカード決済をする予定で来られる方がいる中、志摩地域ではクレジットカードが使える所が少なく、その不便さが指摘されております。そのことから、伊勢志摩サミット市民会議の観光分野に関わる部会では、市内各店舗においてクレジットカードが使える環境整備を進める方向で今協議しております。しかし、環境整備されない店舗も発生することが懸念されることから、外国人観光客が安心して滞在できるよう換金所の設置についても県とともにこれからもご相談したいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

以上、とりあえずサミットをお迎えするにあたっての環境整備についてお話ししましたので、また知事の方からも何かご回答いただければありがたいかと思っております。

知 事

はい、ありがとうございます。サミット開催までの環境整備などについてお話しいただきましたので、ちょっと長くなるかもしれませんが、少し、いくつか申し上げさせていただきたいと思います。

まず、今、サミット推進局は56名体制でやらせていただいておりますが、志摩市さんには早々に2名を派遣していただきまして感謝申し上げます。大活躍をいただいております。また、先ほど市長からご紹介があった通り、サミット担当の専属の部屋を志摩市において設置をしてもらったり、あるいはサミット推進本部というのを作っていただいたり、先ほど申し上げてもらった市民会議で「まちの雰囲気づくり部会」とか「ひらかれた観光地づくり部会」「未来に続く志摩づくり部会」とかそういう3つの部会を立ち上げていただいて、オール志摩で受け入れ体制を進めていただいていることに改めて感謝と敬意を申し上げたいというふうに思います。このサミットと言いますと市長は十分ご案内いただいておりますけども多くの市民の方もいらっしゃいますので改めて申し上げますが、当然5月26日27日の首脳の会議もさることながら、首脳が会議している間に例えば配偶者プログラムというのが行われたり、あるいはもう年内からスタートしますけれども、海外のプレスツアーとかあるいは年が明けてくれば各国の先遣隊というのが先に来て、うちの首脳たちが来るけどどんな所だろうか、どういう風なところを回ってもらったらいいだろうかという先遣隊が来られたり、あるいは9月5日先ほどご紹介いただいたサミットフォーラムというのをやったり、あるいはメディアセンターというのできるわけですけどそのメディアセンターに三重県情報館というのを設置して三重県の情報発信をしたりとか、あるいは食材を今、市町のみなさんを通じて提案をお願いしているところでもありますけれども、食材の提案を受けて色々ところで食材を提供できるようにするとか、あるいは宿泊予約センターを、今日開設になっていると思いますので宿泊予約の調整をしたり、あるいは弁当の配給の調整をしたりと、まあそういうことで多々やることがあるという中で、ぜひ志摩市におかれましても色々ご協力いただきたい。今申し上げたようなことでの提案をたくさんいただければと思います。僕らとしては先ほど冒頭に市長からもあったように、国の動きが中々決めてくれないところとかもあつたりするんですけども、手戻りがあるかもしれないけれどもどんどん提案していくと、で、提案したけど結局採用されなかったね、とか後で全然違うのが決まったね、とかあるかもしれませんが千載一遇のチャンスなのでどんどん提案をしていきたいと思いますので、ぜひ積極的にご提案をいただければというふうに思います。

それからなによりですね、まさに賢島のみなさんを中心として一定の交通規

制とかですね、そういうのがなされることになりますので、県としても住民懇話会を立ち上げて十分に情報提供などさせていただきたいと思っておりますけれども、その点についてもくれぐれもご協力をお願いしたいと思いますし、規制する側、規制される側というだけじゃなくて、交通規制がある地域にお住いの方々も自分たちがこういうのをきっちりやることでおもてなしをしていこうという、住民の皆さんの意識喚起とかですね、そういうこともご協力いただければと思います。そんな中で今私どもが申し上げたような提案をお願いしますということ以外にですね、例えば志摩市さんにこんなことを期待したいなあというのをいくつか大きいことから小さいのからも含めてですけども、まずはやっぱり多くの世代の皆さんにですね、例えば「花いっぱいおもてなし運動」というのが洞爺湖とか沖縄でも行われましたけど、それも一部の団体とかでやるのではなくて、やっぱりまさにご当地ですので、小さいお子さんから女性高齢者まで市をあげてそういう活動に、美化活動などを含めてですね参加をしていただくような体制を整えていただくと、これはまた開催地というのは1ヶ所しかないわけでありまして、志摩市しかないわけですので、この志摩市の皆さんが一人でも多くの皆さんが小さい子も含めて高齢者の方も含めてサミットに参加したなという感じに、そういうオール志摩で活動を進めていただくおもてなしがあるといいなあと思っておりますし、例えば、実際どこまでできるかわかりませんが、首脳を迎えて歓迎するときには沿道などでですね、住民の方々により心のこもった歓迎とか出迎えとかですね、あるいは各国の先遣隊とかが来た時の、地域住民の皆さんとの交流とかですね、そういうようなおもてなしができるような体制もお声がけしをしていただくとありがたいなと思っておりますし、また先ほど申し上げたプレスツアーとかに提案というのもですね、定番のやつだけじゃなくて、最近インバウンドの取り組みとかやっても思うんですけど、僕らにとっては日常の事でも海外の人から見たら非日常の「あ、こんな経験ができるのか」とか「こんなスポットがあるのか」とかそういうのもあると思っておりますので、ぜひ県では気付かないような志摩市の皆さんだから気付く様々な資源とか人の魅力とかですね、積極的にご提案いただければというふうに思っております。

で、県の方でマスコミ向けに雑誌とかハンドブックみたいなものを作ろうと思っておりますけれども、できればですね大口市長は市長会会長でもいらっしゃいますので、志摩市さんが中心となって伊勢志摩地域の特化した情報配信ツールを連携して作っていただくとかですね、そういった音頭取りとかもしていただけるとありがたいなあというふうに思っておりますし、今うちの教育委員会の方で少しいろいろ検討して近いうち、来月中ぐらいには日程を示せると思うんですけども、子供たちを巻き込んだ取り組みとか、そういうのも考えているんですけど、例えば明日の志摩づくりという観点では志摩の子どもサミットとか10年後

20年後の志摩市を担う子供たちに何か残っていくようなことなども考えていただくといいかもしれないし、後やっぱり先ほどの海洋立国の表彰を受けていただいた里海というのをどう発信していくかというようなことについてもですね、ぜひ考えただいてご提案いただいたりすると非常にありがたいかなあというふうに思います。そういう「さすが志摩市やなあ」という「ご当地盛り上がったなあ」というような感じになっていただくとありがたいなというふうに思っております。

で、後、共通認識、先ほどいくつか課題をおっしゃっていただいた部分についてですけどもそれに関連して申し上げておきますと、道路や河川などの公共事業について警備上の観点あるいは景観の観点、こういうのから現在県土整備部を中心に精査をしています。北海道にも実際行ってどれぐらいの走行距離で走らないといけないから、その走行速度で走るためにはどのような環境整備が必要であるとか、どういう道路の維持補修が必要かとか、どういう伐木が必要であるかとか、あるいは河川の河床の掘削が必要であるかとか、そういうのを今精査させていただいております。おそらく来月、今警察とも調整しながらやっていますけども、来月にはどこかで、もちろん議会でお示しすることになると思いますので。その時に、県道の所は結構あるのですが市道の所もですね、ぜひ合わせていろいろ議論させていただければというふうに思っています。

後は、道路からちょっと遠いところにある、ちょっとこれは目隠しした方がいいなと思う構造物とかですね、そういうものも色々あろうかと思っておりますので、そういうものの精査も今していますので、ぜひそういう部分も協力していきたいと思っておりますし、そういう部分で志摩の公共事業でそういうのが一定進むような形にも伊勢志摩地域としていきたいというふうに思っています。これは志摩市だけじゃなくて鳥羽も伊勢も今申し上げたような形で、今公共事業を精査しているところであります。

先ほど市長がおっしゃっていただいたバスの関係でいきますとですね、特に空港からの二次交通は重要な問題だというふうに思っていますので特に所要時間の短縮の観点からは空港から直接の運行じゃなくて高速船プラス高速バスというのが現実的かつ効率的だと思いますので、実際今さっき申し上げた精査している公共事業においても高速船を使うようなケースも念頭に入れた整備も現在考えているところです。なので、港の関係なども含めてですけども。ですので、バスの有無については県内の交通事業者の意向も聞き取りながらですね、連携して安全で効率的な二次交通の実現に向けて、今市長からご提案いただいたことも含めてですね、検討していきたいというふうに思います。

それから磯部バイパスですけども昨年度、26年度に地元の詳細なルートを提示させていただいたところでもありますけれども、今年度から用地買収に着手す

る予定ですのでこの供用開始は用地買収に依拠しますので、用地買収は我々もしっかり頑張りますのでぜひご協力を賜ればなというふうに思っています。

それから、続いて Free Wi-Fi ですが、NTT さんで志摩市内で約 30 ヶ所、今現在考えて整備を進めていただいております。それから県の地方創生交付金を使った補助金も準備していますので、ぜひせっかく Wi-Fi 整備できなければですね、もう Wi-Fi スタンダードですのでぜひ積極的な整備をしていきたいと思えます。できれば、NTT さんがやっていただく部分と、民設民営でやっていただくので、今うちがやる地方創生交付金の先行型使ってやる Free Wi-Fi の整備は上限 20 万円で整備額の 1/2 を補助する制度なんですけど、現在志摩市内の事業者の方から交付申請が無いので、できれば Wi-Fi っつと使えるものなんで、ホテルに入れたらそのホテルの皆さんの資産にもなるので、ぜひ積極的なご提案をいただくようなご協力もいただければというふうに思えます。

それから、換金所ですが、ぜひ、最終的には民間事業者の判断になりますけども志摩市さんとか県内金融機関とかその換金所の設置のあり方、研究をしていきたいと思えます。今のところ、郵便局ですね志摩市内 10 店舗以上あると思うんですけど、ここでは日本円を引き出すということが出来ますのとまた銀行窓口での外貨両替も可能ですので、そういうところのなんていうんですか、明示っていうんですかね、「ここで下せるよ」っていうのを外国人の人も分かるような形っていうのは大事ななというふうに思えます。例えば非常口の緑色の走る姿の表示ありますよね、あれって東京オリンピックの時にできたピクトグラムなので。私たちが洞爺湖に視察に行ったときにメディアセンターだったルスツリゾートにも行ったんですけど、ルスツリゾートは言語表示じゃなくて徹底したピクトグラムでホテルの中をやったと。ピクトグラムと英語と日本語というので徹底的にピクトグラムでやった。言語だと中国語も簡体字も繁体字もそれからフランス語もハングルもってやると大変なんでピクトグラムでやったというのがありますから、そういうのは研究を、県ももちろん一緒になって考えさせていただきますので研究をして、ここが換金所だぜとかそこへ至る道とかですねそういうのもわかるような。先ほどの公共事業については道路標識とか外国語案内も含めて今現在精査していますけど、そういうような使いよい仕組みというのも考えていきたいというふうに思えます。

それからクレジットカードを利用できる店舗を増やすというのがやっぱり重要ですので、現在先ほどと同じ地方創生交付金の先行型でクレジットカード決済機購入にかかる経費を支援する仕組み、これは上限 10 万円ですけども、1/2 補助ですが、それも準備していますので、我々も宣伝しますが、ぜひ志摩市においても宣伝していただいてそれを活用していただいて、そのクレジットカードのやつも結局ずっとその事業者の方も使えるわけですから、そういうのも宣

伝していただけるとありがたいなというふうに思います。大体この上限 10 万で設定してますけど決済機の購入というのは大体 1 万 5 千円とかなので、多分補助金使っていただくとだいぶお得に決済機を付けれるかなというふうに思います。

そんな環境整備の所、お願いの所も多かったのですが、今、市長がおっしゃっていただいたような、今僕らは国の方でなかなか決まらない部分はありますけど、どんどん情報提供させていただいて、事業がどんどん進んでいくように心がけていきたいとしますのでよろしくお願いします。ちょっと長くなりましたけど。

志摩市長

はい、ありがとうございます。本当に今回サミットを受けるにあたり、我々一生懸命に環境整備など、本当に志摩として何ができるか考えています。知事からいただきました提案、それと子どもサミットですか、そういったことについて考えてみたいと思います。地域を挙げて応援したいと思っています。今の自治会の方でもこの花いっぱい運動だとか、あと民間の NPO の方々でも花いっぱい運動やろうかとか、色々出ておりますのでこれを取りまとめてまた我々としても一つの形として提言させていただきますので、またよろしくご指導お願いします。

で、また日常の事なのですが、アクセス道路 167 号ということで大変ありがとうございます。今回用地買収ということで我々も一生懸命に用地交渉についてはあたらせていただきますのでそのことについてはできるだけ早い段階でお願いしたいと思います。で、この Wi-Fi なんかも本当に今非常に重要性はよくわかっているんですけども中々わかっていない方々もおりますので、そういった古い頭というんですかそういった考えの方々に我々も意味を説明しながら十分なことをしていきたいと思います。

もう一つアクセスの事なんですけど、実はリムジンバスだとかそれもあるんですけど、実は過去においてはこの英虞湾から水上飛行機が飛んでいたんです。

そういうので何人か客を運んでいたと。そういうのがひょっとしたらできればおもしろいかなと。特に海外のインバウンドから考えますと、空港から志摩へ行くアクセスが非常に厳しいと。そういう中で、もしヘリコプターなり水上艇で飛んで来ればかなり近くなるということで、この伊勢志摩そして鳥羽、この地域の客数が増えると思います。そういったことについても我々、一度そういった話をしなければならぬと思うんですがその点についてはどうでしょうか？

一度ちょっと海難事故があった時に航空自衛隊が飛んだ。ああいった飛行機です。ああいったのが過去にあったんです。

知事

ああ。なるほどなるほど。そうですね、首脳が乗るというのは難しいかもしれませんがプレスツアーとか一定の富裕層のインバウンドでは、ちょっと料金高くなるかもしれませんがこれいけるよ、とか。鳥羽とか合歓の郷もやってるんですかね、自分の所でセントレアから直でヘリとか直の船とかやってますよね。そういうものの宣伝の一環として水上艇、水上艇どこへやるのかはわかりませんが、そういうのも売りにはなると思いますね。特にアジアの富裕層とかね、そういう人たちが乗りたくなるような感じですよ。

志摩市長

そうですね。質問の候補にはなかったんですけども、いつだったか志摩の観光ホテルにヘリコプターが停まった時に、乗っていた彼が言うには、日本にもたくさん金持ちがいると。ところが東や西で終わってしまうと。だから伊勢志摩鳥羽にそういったヘリポートのようなものを常設できればかなり面白いということです。ということ踏まえて、このサミット後についてはまたよろしくをお願いします。

知事

ありがとうございます。

2 地方創生について

志摩市長

地方創生についてはまた本当によろしくをお願いします。地方創生というのは三重県の総合力、また市町の総合力が試される事業だと思っております。そこで地方創生の事についてですけども、志摩市では昨年度の末に庁舎内に推進本部を立ち上げ検討をスタートさせ、今年度からは国の地方創生支援人材派遣制度を活用して環境省の職員を一人いただきまして、地方創生に向けた検討を進めております。推進本部は市内のほぼすべての部署から職員が参画するワーキンググループを根底に幹事会、本部会議を設定してオール志摩市での検討を行っております。また、推進本部とワーキンググループと幹事会には地方銀行にも参画していただき、行政と金融の連携を強化して民間を支援する仕組みの構築や、やる気のある事業者を支援できるような検討を進めております。特に若

者の意見の集約ですけれども、農業、漁業、自営業、移住者や子育て中の方などの様々な 20 代 30 代の地域の若者を集めたワークショップや、地元高校、これ水産高と志摩高校 2 つあるんですけど、この 2 校を含む志摩市の出身者や多く進学する高校 4 校の生徒を対象とした高校生アンケートを実施して地域の声、特に先ほど言いましたように志摩市を担う世代の声を集めて検討に反映させたいと思い、今やっているところであります。

また多様な主体との検討ということでありまして、この人口ビジョンや総合戦略の検討に当たっては市議会全員協議会や各種団体との意見交換や審議会での審議、また先ほど言っていただきましたようにシンポジウムの多彩な開催を通じて多様な主体の地方創生への参画が実現できるよう努めております。

スケジュールといたしましては、今年度末に人口ビジョンと総合戦略を策定するスケジュールで検討を進めておりまして、先般、原案を志摩市の全員協議会にお示しさせたところでありますし、また色々な意見をいただいたところであります。

特に人口ビジョンと総合戦略に関わりましては、この人口ビジョンの事でありまして、現在志摩市は 5 万 2 千人程度の人口ですが、現状の合計特殊出生率や社会減が継続すると、45 年後には、このままでは 1 万 3 千 5 百人を下回る推計になっております。こうした現状を踏まえて、人口ビジョンに記載する 45 年後の将来人口につきましては約 3 万人程度を挙げたいと考えております。これは、国や三重県で示されるように出生率を段階的に 2.1 まで向上させるとともに、志摩市の転入と転出を均衡させて現在生じている社会減を 10 年間でゼロにするという高い目標を立てて、なんとか達成できる推計であります。

一方で、地方創生の検討を進めていく中で描かれる志摩市の将来像は、地域の自然環境、景観、文化、伝統や人のつながりを変えずに守るということと、志摩市の豊かな食材の生産と消費を見直しして、地域の資源を最大限に活用した世界に発信できる観光を築き、地域に誇りをもって自らその素晴らしさを伝えられる人を育て、訪れる方々も志摩市を愛してくれるような地域をつくるということです。減りゆく人口の中で、目指す将来像を実現させるには、今を生きるひとりひとりのパフォーマンスを向上させ、これからを担うひとりひとりの地域を生かす力を強化することが必要になる、ということでありまして。まずは、そのことを市民一人ひとりにご理解いただいた上で、志摩市としては民間の活力を最大限発揮しようとする意欲の醸成と、その意欲を大きくする仕組みの構築、そして動き出した民間の様々な支援を通じて、志摩市の将来像を実現していきたいと考えております。

また、総合戦略でありますけれども、そのために策定する総合戦略では、6 つの政策分野の循環を起こすことによる地方創生を考えています。この 6 つの政策

分野でありますけども、具体的には法律に明記される「まちの形成」「ひとの確保」「しごとの創出」の3つに加えて「まちの発見」「ひとの育成」「しごとの強化」の3つを加えた6つの政策分野を循環させることを考えております。

「まちの発見」は、今ある産業を強化したり新しい事業を興したりするためには、地域の資源や魅力を再開発することが必要だという考えに基づいた政策分野です。

「ひとの育成」は、地域の資源や魅力を再発見し、地域の産業の強化や新規事業を興すような人材や地域の文化伝統を担う人材を域内で確保していくことが必要だという考えに基づいた政策分野であります。

「しごとの強化」は、新規事業を興すことも重要ですが、現在地域を支えけん引する産業である一次産業や観光業などにおいて、マーケティング、商品開発、販路開拓、研究開発、人材育成といった産業化のサイクルが十分にできているわけではなく、そこを強化していくことが必要だという考えに基づいた政策分野であります。

人を育て、人材を内外から確保して、改めて地域を見つめなおすことで、今ある産業を強化し、新たなビジネスを興しながら、地域の、医療の「医」ですね、職業の「職」ですね、「医・職・住」を充実させて住みよい街をつくり、更なる人の育成や人材の確保につなげていく、そうした「まち・ひと・しごと」の好循環を起こしていく、というのが志摩市の考える「まち・ひと・しごと創生」です。

しかし、一番大事なのは、そうした戦略に基づいてどういった戦術をどういった分野の誰に対して講じ、どれだけの効果を得るかということです。これらについては具体的な施策を検討する中で明確にしていくことになると思いますが、現在、鋭意検討中ではありますが、6つの政策分野の循環という大きな戦略の流れを踏まえつつ、何をするのかという具体的な部分については、市民にもわかりやすい具体的な施策となるよう指示をしていきたいと思っております。

また、今非常に県立高校のことが言われてますけど、今志摩市には2つあります。「県立高校の全国からの生徒募集の実施について」であります。人口減少の大きな要因の一つが15歳～29歳の若者の転出であり、少しでもそうした世代の転出者数を減らすことが必要だと思っております。そのための策の一つとして、県にご協力いただきたいのですが、県立高校の全国からの生徒の募集の実施です。志摩市には、三重県内で唯一の水産高校と芸術活動が盛んで伊勢志摩地域では美術を生かしたまちづくりに貢献をしている志摩高校という特色ある県立高校が2校あります。志摩の豊かな自然と温かい人のつながりのなかで高校生活を営むことで、全国の都市部では経験できない生徒の人生にとって貴重な時間を提供できるのではないかと考えております。水産高校の具体的な職業

を見据えた学びの場での経験は、可能性が多くある水産業の担い手の確保にもつながると考えられます。

志摩市としては、地方創生の政策分野に「ひとの育成」と「ひとの確保」を掲げておりますので、ぜひ県立高校の全国からの生徒募集を三重県として実施していただければと思っております。

またもう一つは広域連携でありますけども、三重県「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と各自治体の総合戦略が、車の両輪となって地方創生を進めていくためには、近隣市町が連携をすることはもちろんですが、その集まりを単位として県内をいくつかの広域としてとらえ、広域レベルでの県の施策と合わせて講じていただくことが必要だと考えられます。

6月にまとめられました三重県の総合戦略の中間案の中では、南部地域市町への支援という項目が各ライフステージやライフシーンを対象とした施策の中に盛り込まれておりますので、ぜひとも広域連携の方向性を示していただいたり連携化を促したりしていただけるような施策を講じていただければと思っております。また先般も鳥羽市と伊勢市さん、南伊勢町さんに私やらせていただきまして各市町長に言いましたのは地方創生のレベルですか、広域が当たる場合にはタイプ1の事例ということで、実は我々もこのサミットを契機にこれからの地方創生として伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町で連携しますということで、そういったうちの各担当で連携する場合の話し合いの場をなんとか気楽に持っていただきたいということで各市町長に言いましたところ了解を得ましたので、こういったことを含めてまた知事の方から試算なりご指導いただければと思います。ありがとうございます。以上であります。

知 事

はい、ありがとうございます。まず地方創生については、県の地方創生の会議においてですね、市長会会長として大口市長には参加をしていただいております。ご提示していただいている地方創生の総合戦略も9月に一旦の総合最終案は出させていたいただきたいと思っておりますけども、まだ議会でもご議論いただいておりますので、またどんどんブラッシュアップしていく形にしていきたいというふうに思っています。県としては、社会減については学ぶ、働く、暮らす、このそれぞれのライフシーンにおいて、どういうふうに社会減を止めていくか。自然減については結婚妊娠出産子育て働き方、それぞれのライフステージでどういうふうにやっていくか、ということを軸にですね、中身を考えています。今おっしゃっていただいたタイプ1という地方創生の交付金の上乗せ候補ですね、この10月末を締切とした上乗せ候補についても、この三重県としてもなるべく働く場、学ぶ場につながっていくようにですねやっていき

たいというふうに思っています。現在我々が入手している情報によると、タイプ2はけっこうそうでもないんですけどタイプ1の先駆的な取り組みのやつはかなり競争率が激しいらしいので、300億の枠にかなりの数が来ている、来ることが予想されるらしいので、激戦ではありますけどもそういうのも活用して地方創生進めていきたいというふうに思っています。

それから市長がおっしゃっていただいたような学ぶ場の所は大変重要だと思っております、先ほど高校生アンケートと市長の方からおっしゃっていただきましたけど、県の方でもですねこれはまたむしろ進学に少し特化した形ですけども、進学の意向に関する高校生とその保護者の意識調査をですね、先般やらせていただきました、この8月26日の僕の定例記者会見でその内容も発表させていただこうというふうに思っておりますので、またそういう内容を踏まえて、後志摩市さんでやっていただいたアンケートなんかともクロスしながらですね、こういうふうに学ぶ場、で保護者の意向も結構、今分かっているだけでも、まあそりゃそうだろうと思われるかもしれませんが、母親の意向とかもかなり結構強かったり。地元に残ってほしいと思うのは親の方が結構強いけど高校生自身は別にいいぜ、と思っていたりとかそういう色々示唆に富むものがありましたので、それもクロスしながら対策を考えていきたいというふうに思っています。

水産高校の件ですけども、実は現時点においてもですね水産系の高校の無い11府県に対しては三重県の水産高校への志願を認めています。例えば11府県って埼玉、山梨はあれですけど、長野、岐阜、滋賀、大阪、奈良、和歌山、岡山、広島、佐賀っていう結構近いところも多いので、もう少し中学校のですね、どこかの市やどこかの町の中学校の教育委員会とかをもうちょっと重点的に掘り下げるとかしてですね、水産系高校をいきなり全国に広げるという前に、この水産系の高校の無い11府県、すでに志願を認めているところで実が上がるような取組も可能であると思えますし、また、例えば郡上八幡とかそういう所いくつかとも志摩市さんはおつきあいあるんじゃないかと思えますので、そういう所の教育委員会への宣伝とか一緒にやったりしていけると、いいのかなというふうに思っています。それから、三重県もそうなんですけど実際に県外から高校生を受け入れてみた場合に、生活習慣の違いとか地域での居場所の確保とかですね、そういうような学校生活以外の部分で地域にご協力いただくことが重要な面もありますので、そういう所はまた色々な課題を抽出しながら、学校の魅力化特色化もやりつつ、地域の皆さんにご協力いただく部分も、我々もしっかり考えてお願いをしていかなければいけないのかなというふうに思っています。

それから、続いては広域連携のところですけども、おっしゃっていただい

ているとおり、南部地域活性化基金と南部地域の活性化プログラムを、今リニューアルしようと思っています。最初はこの市町の広域連携ってどうなんだ、という話もあったんですけど、結果やってみて結構活用していただいているので、この広域連携という部分においては、そういう思想は基本的に、全てかどうかは分かりませんが基本的には提示しつつも、もっと定住とかですね、人に住んでもらうというようなことに重点を置いた事業ができるようなリニューアルを考えていきたいなというふうに思っています。志摩市さんにおかれても企業立地セミナーとか空き家調査とか、そういう事業で南部地域活性化基金を使っていたいておりますので、そういう様々な形での連携がさらに進んでいくようなですね、特に定住定着につながるような、あるいはさっきの「すごいやんかトーク」でもそうですけど、帰ってきたいなと若い人たちが思うようなまちづくりにつながるようなですね、そんなリニューアルにしていきたいと思えますので、また色々ご意見などを賜ればというふうに思っていますので、今後ともよろしくお願ひします。

志摩市長

はい、ありがとうございます。本件特に高校生の事なんですけど、志摩高校はやっぱり生徒たちの進学または一般教養ということで頑張っていたいてますし、特色のある学校なんですけど、もう一つの水産高校はですね、これは私が三重県の発展は、言い過ぎだとは思いますが、この水産高校の存在があったからだと思います。

例えば 110 年前に、真珠の技術ができた時に、この水産高校を出た生徒がこの地域にたくさんいたということで技術の吸収が早くできた。ということでこの英虞湾で真珠養殖が発展したと思われます。もう一つは当時遠洋漁業が始まったころに、そういった操船方法だとか漁業の、近代的な漁業を真っ先に学んだのがこの高校生、水産高校。で彼らがいたから南も良くなったと思うんですけど、そういった発展の礎を築いた高校が、現在生徒減で大変厳しい。その中でいろんなことを支援していきたい。なぜかと言いますと、まず県の方からも宣伝していただくんですけど、例えば志摩市がこれから、水産高校のある志摩町というところで、そこの下宿のお母さんとか、または食事を提供するお店さんと話をして、例えば下宿であれば何%補助しましょう、そういうのを県から上乘せすることにしましょう。食事の場合でも市が補助する、何人かに。そうすると県の方から上乘せ補助するということで、子供たちを志摩市に送る場合にお母さんたちが安心して志摩に学びに行けと言える、そういったただ来いだけじゃなく来れるための環境を整備したいと思っており、そういったときにまたよろしくご指導お願ひしたいと思ひますし、また我々からもそういつ

たことについて県議の方々にもお話ししながら議論に上げていただくのでまたお話をお願いします。

また、知事が言われるように広域連携についてもこの間回りまして、やはりそれぞれの、鳥羽市も伊勢市も志摩市も南伊勢町もやはりもう一步、なんとか地域住民のために頑張りたいと言ってますし、これがもしまとまりましたら、またご指導をおねがいしたいと思います。ありがとうございます。

3 サミット開催を契機にした地域づくりについて

志摩市長

このサミットにつきましては今国の動き県の動き我々志摩市の動きとあるんですけども、やっぱり先ほどあいさつで言いましたようにこのサミットは三重県はもちろんですけど、また近隣の伊勢市鳥羽市もそうなんですけど、この志摩の、または賢島の知名度を向上させ、国内外の方々にその存在を知っていただくという絶好の機会です。この機会と効果を一過性のものとしないうちに、市内のあらゆる事業者と市民が連携し、市内の英知、アイデア、技術を統合して志摩の魅力向上し、創造するような検討をし推進をしております。

その中で、インバウンド戦略に対する誘客着地型商品の開発、これについては業者の育成となりますけど、三重県が進めるインバウンド戦略に対する市の役割として、地元観光の整備、誘客イベントの開催、着地型商品の開発や地域人材の育成を進めていきますので、ご協力をお願いしたいと思います。

そしてまた、国際会議を伊勢志摩で誘致ということで、特に会議できるような会場が三重県内にたくさんあります。特に伊勢志摩方面にあると思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。特に、伊勢志摩地区の自治体が市民とともにサミット成功に向けて色々な活動を行っております。伊勢志摩サミットが盛況の中終了することができた後には、市民、自治体の活動力を備えた伊勢志摩地区に他の国際会議を誘致していただきたいと思います。特に志摩市は現在 PEMSEA という沿岸域の総合戦略会議をやっておりますけどその PEMSEA の会議を 2 年前に開催しました。その時には東南アジアから 170 名の方々の首長が来ていただいて合歓の郷で盛大に開催し大いに評価されたと思います。後、その前年には界面粒界学会というのがありまして、世界の物理学者、世界の会議に界面粒界、粒と言ってもですね、小さなミクロのミクロもつと下、とても小さなことの研究ですね。そういう方々が約 100 名ぐらい集まって、一週間、賢島で宿泊して勉強しながら発表しながら、非常にマイナーな会議だったんですけど、やはりすごかったということで、サミット後にはそういった国際会議を

できればこの南部の方にたくさん引っ張っていただいて誘客と地域の振興に努めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

知 事

はい、ありがとうございます。ポストサミットについて大変重要なお話をいただきました。私たちとしても、今内部で検討していますけどポストサミット、どういう点まで取り組んでいくのか。前洞爺湖行ったときは、洞爺湖は、北海道は食、環境、観光。この3つのテーマに絞って官民挙げて、北海道経済連合会とかも一緒になって色々な取り組みを続けてきたということをおっしゃっていただきましたので、どういう風なつなぎ方をしていくのか、というのは開催までにしっかり議論していかなければいけないことだと思っていますので検討して、皆さんのご意見をしっかり聞きながら検討していきたいと思います。その中で今市長からはインバウンドと国際会議の話をいただきました。

インバウンドについては今から正に情報発信をしていくということと、受け入れの、先ほどの Wi-Fi とかですね、免税店とかそういうの繋がってくと思いますけど、そういうのもやっていこうと思いますし、先ほどおっしゃっていただいた着地型の商品ですね、今ちょうど観光の時期の、観光の振興計画のリニューアルを今議論しているところなんですけども、そこでは県として一番の目標としてはやっぱり観光消費額に置きたいと。観光入れ込み客数じゃなくて消費額に置きたいと。そのためには滞在時間を長くしなければならないと。で、県の分析とかによりますと、消費額のうち、宿泊と飲食と交通費は増えているんですけど、土産代がすごく減っているの、土産代にけるお金がすごく減っているということなので、じゃあこれを、土産代を真珠とかで増やすという方法もひとつですけど、土産の所に力を入れるというよりは、一泊して午前中で帰ってしまう所をプラスしてですね、着地型の商品でアクティビティやって、でその料金も払ってもらって昼飯も食べてもらってから帰ってもらうというですね、そういうような滞在時間を延ばすための手法として着地型商品って大変重要だと思っていますし、県内でもいくつかエコツーリズムみたいのやっているところは、海外の方向けに非常に人気が出ていますので、そういうものの増勢についてはぜひ力を入れていきたいと思っていますし、特に三重県は asoview という体験型の日本最大のサイトと連携してメニュー載せる活動とかもしてますし、この間モンベルの代表が来られた時も三重県ほどシーカヤックに向いている場所は無いというふうにもおっしゃっていらしたので、そういうのも考えながらぜひ着地型商品、一緒になって考えていきたいというふうに思います。

それから、国際会議や MICE の関係ですね、これの誘致ですけども、今回のリニューアルしている観光計画に書こうとも思っているんですけども、三重県に

適した MICE とはなんなのかという分析調査をやって、それを中心にターゲット決めながら国際会議の誘致をこれから進めていきたいというふうに思っています。地方でも、世界最高峰の会議ができると。で、先ほどの界面学会のような民間の学会も含めてできるようにしたいというふうに思います。特に、私、この年内のどこかで国に提言しに行く機会があった時には、実は前回全国知事会で石破大臣にあたったら言おうと思っていたんですけどあててもらえなかったのと言えなかったんですけど、サミットは地方でやる、となっていますけど、それ以外の関係省庁がやっている国際会議は山ほどあるのに、ほとんど東京横浜大阪名古屋京都神戸とかなので、原則国の関係省庁全部の国際会議は原則地方でやる、となったらだいぶ MICE 増えると思うんですよね。そういう何か原則論を出してもらって、よっぽどじゃないと東京でやったらアカンとそういう形にしてもらおうと、もっともっと MICE の可能性も増えてくると思っていますので、そういう地方創生なんだからということで、多分政府機関の地方移転もこれから志摩市さんにも協力いただいて提案していきますけれども、政府機関の地方移転って霞が関の人めっちゃ移動するの嫌がりますから、かなりハードル高いと思うんですけど、国際会議の地方移転だったらそんなに難しくないはずなので、ぜひ今言ったような原則論をまた提案して 1 個でも多くの国際会議を三重や志摩や地方で開催されるようなことを提言をしていきたいというふうに思っていますし、先ほどの関係、政府の地方機関の移転もしっかり取り組んでいきたいというふうに思います。そんなことでポストサミットについてもしっかり連携して取り組んでいきたいと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

志摩市長

色々ご質問、また要望させていただきましたけど、本当に短い中でお答えいただきありがとうございます。我々も三重県政の発展、そこに我々も参加しておりますので、一生懸命サミット後の地域振興を頑張ります。また、知事の方にもご壮健で色々ご指摘いただきますようよろしくお願いします。ありがとうございます。

(3) 閉会あいさつ

知事

大口市長ありがとうございました。サミットについて開催までの環境整備、それからポストサミットの話、こういう来年 5 月 26 日 27 日を中心とした部分に向けた話と、地方創生というこれから長く重要な話と、大変有意義な時間であったというふうに思います。ぜひこれからも連携をしてやっていきたいと思

いますし、さっき途中で話したことも重複しますが、国の動きがなかなか見えにくい中ですが、霞が関の人たちって最後に帳尻を合わせるのが得意なので、最後にバババッとやってきますから、地方はそういうスケジュール感ではないので、どんどんこっちから提案して行ってですね、早く決めて早く決めてと。手戻りする部分はあるかもしれませんが、多分来月にはいくつかのやつについて提案を国の方にも出していけるというふうになると思いますので、ぜひご協力いただければというふうに思います。

そして今日お越しいただいた皆様にはぜひ今日この後、地方創生のフォーラムが志摩市さんの開催で、今日うちの戦略企画部長も行かせていただきますけども、ぜひご参加いただければと思いますし、9月5日の伊勢志摩サミットフォーラムは残念ながら定員を締め切ってしまいましたので、来ていただいても立ち見になっちゃうかもしれませんが、早く来ていただいたら座れるかもしれませんが。まあみんなだね。

後は、さっきの「すごいやんかトーク」でも言ったんですけど日本の国際観光競争力というのは世界で14位らしいんですが、観光事業者のホスピタリティというのは世界一らしいですね。でも、市民の受け入れ体制というのが百何位とかそういうような状況らしいので、ぜひですね今回を機にみんなで。英語とか上手にしゃべれなくてもいいと思います。笑顔で「サンキュー！」とか「ウェルカム！」とか言っていればいいと思うんですよね。そういうようなせつかくのきっかけですからね、三重県全体でそういうのができるような、そして志摩市さんはまさに開催地中心ですから先頭を行っていただくような取り組みを市民の皆さん一緒になってやっていただければと思いますので、我々も一生懸命頑張りますからどうぞご協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。